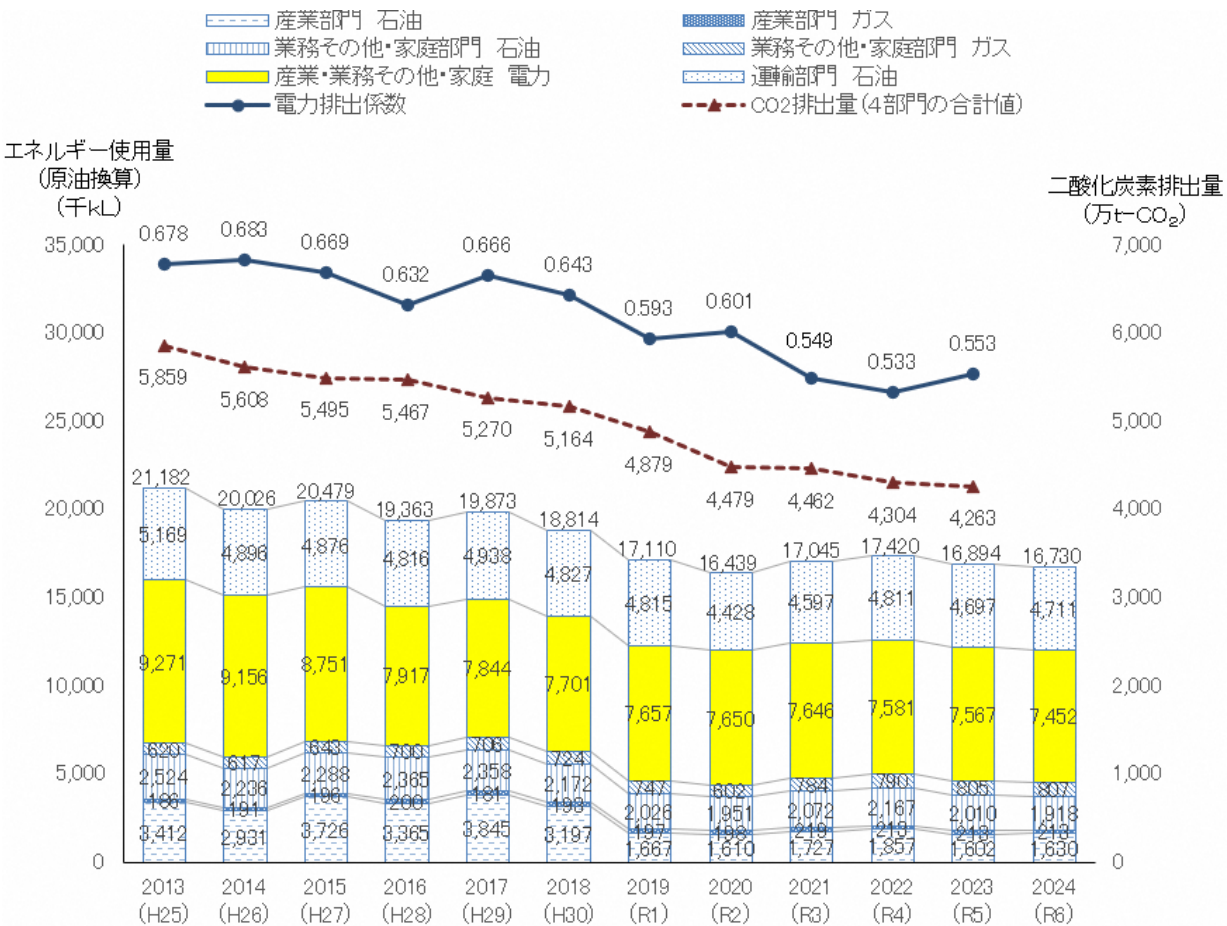


参考１ エネルギー使用量の経年変化

- 道内の温室効果ガス排出量の約 8 割を占めるエネルギー起源 CO₂ の基となるエネルギー使用量に関して、産業部門、業務その他・家庭部門及び運輸部門について、各種統計資料を基に、年度毎の原油換算エネルギー使用量をグラフにしました。
- H25 年度（2013 年度）以降、エネルギー使用量の合計値は減少傾向にあり、特に産業部門の石油や全体的な電力の使用量が減少しており、エネルギー価格の高騰による道民の節約意識の高まりや、機器の省エネルギー化などの取組によるものと考えられます。



道内の各部門（産業・業務その他・家庭・運輸）エネルギー使用量の推移

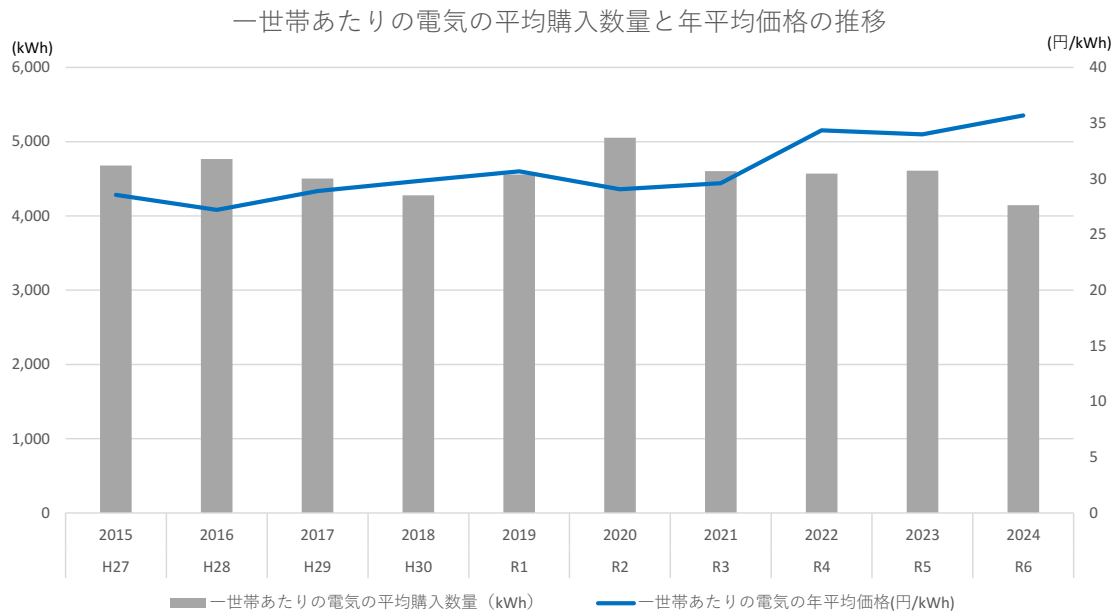
- ※ 電力使用量については、電力の小売が全面自由化されたことに伴い、H28(2016 年度)から電力関係の統計の内容が大幅に変更になったため、使用する統計資料を変更しています。
- ※ 「二酸化炭素排出量（４部門）」は、表 1 (P8) に示した値の内、産業部門、業務その他部門、家庭部門及び運輸部門における二酸化炭素排出量の合計値を掲載しています。（原油換算エネルギー使用量の合計から算出したものではありません。）
- ※ 端数処理の関係上、数値は合計に一致しない場合があります。

【グラフに用いたデータ】

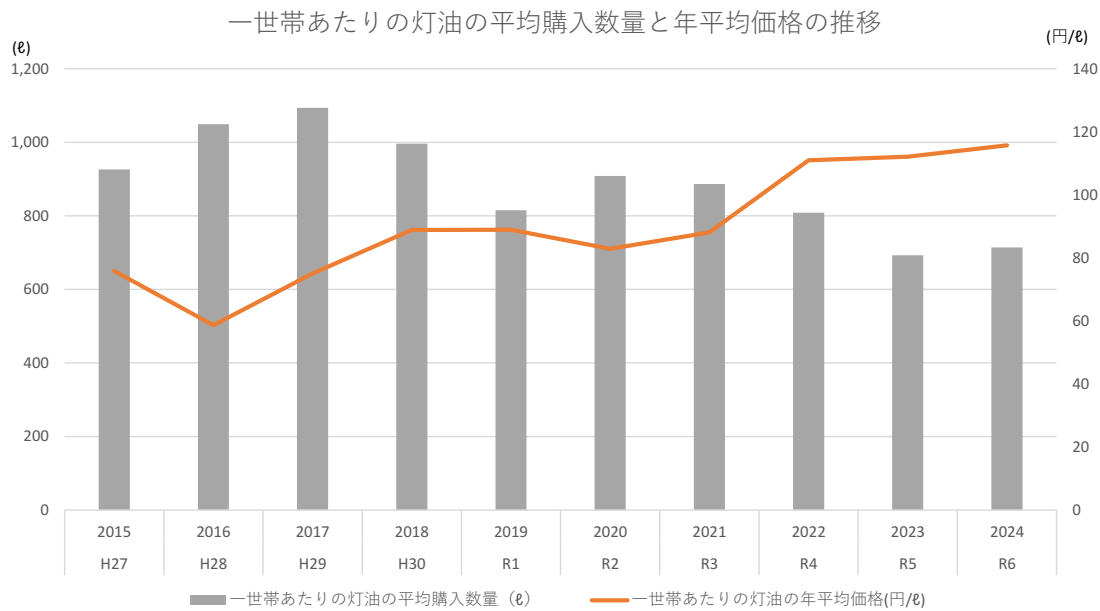
- ① 石油製品供給量
「石油製品用途別国内需要（石油連盟）」を用いて算出した国内の部門別需要比率に、「都道府県別販売実績（石油連盟）」を乗じ、道内の部門別の石油製品供給量を原油換算エネルギー使用量として算出しました。
- ② ガス供給量
「ガス事業生産動態統計調査（資源エネルギー庁）」を用いて、道内の部門別のガス供給量を原油換算エネルギー使用量として算出しました。
- ③ 電力使用量
「北海道電力(株)需給実績（北海道経済産業局）」及び「北海道エリア需給実績（北海道電力(株)）」を用いて、産業・業務その他・家庭部門の電力使用量を原油換算エネルギー使用量として算出しました。
2016(H28)年度以降については、「北海道エリア需給実績（北海道電力(株)）」のみを用いて算出しました。

【道内における電気及び灯油の一世帯あたりの平均購入数量と年平均価格の推移】

○電気・灯油ともに、近年は概ね年平均価格が上昇すると平均購入数量が減少する傾向にあります。



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
一世帯あたりの電気の平均購入数量 (kWh)	4,679	4,767	4,503	4,277	4,560	5,052	4,603	4,571	4,609	4,145
一世帯あたりの電気の年平均価格 (円/kWh)	28.56	27.21	28.90	29.81	30.68	29.07	29.61	34.35	34.00	35.69



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
一世帯あたりの灯油の平均購入数量 (ℓ)	926	1,049	1,094	996	815	908	887	808	693	714
一世帯あたりの灯油の年平均価格 (円/ℓ)	75.86	58.64	75.04	88.88	88.96	82.86	88.05	110.95	112.07	115.70

【出典】政府統計 家計調査 家計収支編 第4－1表 都市階級・地方・都道府県庁所在市別1世帯当たり支出金額、購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）

【年平均価格の算出方法】

$$\begin{array}{lcl} \text{電気の年平均価格} & = & \frac{\text{1世帯あたりの電気の平均支出金額（円）}}{\text{1世帯あたりの電気の平均購入数量（kWh）}} \\ \text{（円/kWh）} & & \end{array}$$

$$\begin{array}{lcl} \text{灯油の年平均価格} & = & \frac{\text{1世帯あたりの灯油の平均支出金額（円）}}{\text{1世帯あたりの灯油の平均購入数量（ℓ）}} \\ \text{（円/ℓ）} & & \end{array}$$